

平成29年度第1回 岡山市歯と口腔の健康づくり推進協議会 概要

日時：平成29年11月9日

午後1時30分～3時

場所：保健福祉会館9階 機能回復訓練室

1 開会

挨拶 岡山市保健福祉局 松岡審議監

2 委員の紹介及び会長副会長の選任について

3 協議

(1) 岡山市歯科保健基本計画について

○事務局： 岡山市歯と口腔の健康づくり条例で、市は市民の生涯にわたる歯と口腔の健康づくりに関する施策の総合的な推進を図ることとされており、岡山市歯科保健基本計画では、施策推進のための基本方針と目標値を定めている。

計画期間は平成26年度から平成34年度までの9年間で、今年度は今までの取り組みに対する評価と計画後半に向けての今後の取り組みを検討するために中間評価を実施する。

(2) 中間評価概要について

○事務局： 平成26年度から平成29年度の間に新たに取り組んだ事業として、入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業、妊婦・パートナー歯科健康診査、障害者（児）に対する歯科医療技術者養成事業、多職種連携等調査研究事業がある。また、歯周病検診は対象年齢を拡大し、平成29年度からは30歳から70歳までの5歳ごとの節目年齢を対象に検診をしている。

中間評価の方法については、アンケート等から目標項目ごとの実績をまとめ、計画策定時に比べ、目標値に近づいていれば「改善」、目標値から

遠ざかっていれば「悪化」、変化がないものは「変化なし」とした。

○委員： 中間評価の方法として、目標値に近づいていれば「改善」、目標値から遠ざかっていれば「悪化」、変化がないものは「変化なし」という評価軸は適正か。例えば、資料5ページの「中学生の歯列異常」の項目で、計画策定時97%が中間評価96.8%となっており、これに対して悪化という評価は妥当か。

○事務局： 1%の変化でも非常に重大な変化だと考えるべきものか、それとも1%の変化は無視できるものなのか、委員の意見をいただきたいと思っている。

○会長： 減るべきものが変化なしもしくは若干悪化となっていれば、結果としては不満足であり、これは悪化と書いていいのではないか。誤差だろう、と片づけてはいけない。難しく考えずに真摯に数字だけを見て判断しても、決してそれが悪いことではないと思う。

〔「異議なし」として合意〕

---

○委員： 「改善の有無」について、「悪化、改善、変化なし」という表現になっているが、「有、無」ではないのか。

○会長： 「改善の有無」を「評価」として、「悪化、改善」とするべきではないか。「中間評価」も、「計画策定時」と対になるものとして「中間評価時」としてはどうか。

〔「異議なし」として合意〕

---

○会長： 資料15ページの「60歳で24本以上の自分の歯を有する人の割合」について、目標を70%と設定していたが、中間評価時で既に目標に到達している。目標に到達したものをどうするか。

○副会長： できれば80%とか目標値を上げるほうがモチベーションが上がり、いいのかなと思う。

○事務局： 60歳で24本以上の自分の歯を有する人の割合は、平成23年が64.6%、平成29年が76.9%。健康市民おかやま21（第1次）で市民アンケートをとった平成13年は63.8%だった。これらから見ると、目標値を変えるのである。

れば80%が妥当ではないかと思うが、いかがか。

〔「異議なし」として合意〕

(3) 今後の対策について

○事務局： 今後の取り組みの方向性について、これまでの取り組みを継続するのはもちろん、今回の評価で見えてきた課題である歯周病、高齢者の口腔の機能の維持・向上、重点的歯科口腔保健対策については、より一層取り組みの強化を図りたいと考えている。

---

○会長： 口腔ケア等導入支援事業による研修を終了した施設に対する「何らかのフォローアップ」の「何らか」はあやふや。ここまであやふやに書くのはよくない。

○事務局： 実際に事業を実施した施設の職員を集め、相互実習のような形で復習をする機会が設けられたらいいと考えている。

○会長： そういった内容が文章に入ったらいい。

---

○委員： 協議会には各界の方々が集まっているので、自分の業界に当てはめたときにどんなことができるかという具体案をここで立てていくべきだと思う。

○副会長： (口腔機能の維持・向上の重要性に関する普及・啓発にかかる) チェックリストに関しては、歯科診療所の待合室に配置することを歯科医師会で考えており、それをより周知していく。会員の先生方の協力が得られればと考えている。

学校の講話等に行く先生が多いが、その中のテーマとして歯周病対策に重きを置くよう、理事から学校歯科医の先生には話をしている。

障害者(児)に対する歯科医療技術者養成事業をしているが、養成事業を受けられた先生を中心に協力いただき、来年の4月以降は障害者歯科診療ができればと検討している。

○委員： 口腔ケア等導入支援事業の研修について、一般の介護員としては知識が低いというのが現実だろうと思うので、例えば、研修会として一般論を

50分、その後これに積極的に取り組んでいる事業所の紹介を50分といった形でやれば、研修に多くの人が集まるのではないかと。

また、商工会議所が毎月出す会報に市のパンフレットを挟む等、周知に商工会議所を活用するのがいいのではないかと。

○委員： 周知方法という点については、栄養改善協議会や愛育委員さんとかといった地域で健康づくり活動をする方、また、商工会議所を含め様々な代表の方がいるので、そういう方々を通してやるのがいい。

周知先については、ここに来ている委員の方々が実は一番重要なところを担っているのかなと思うので、そういうところを活用したり、そういうところを盛り込んだ今後の方向性が示されれば、さらにいい評価になるのではと思う。

○委員： 生活習慣病のある方が歯周病を併発している可能性が高い。一度も歯科医療機関を受けたことがないという患者さんには積極的に受けるように勧めるといったことを医師会から主治医の先生に徹底し、結果、歯科医療機関を受診する機会が増えるようになればいいと思う。

○委員： 歯がない時期から舌を使ってお乳を飲む、離乳食を食べる等、口の中の健康はとても大事なことだということについて、保護者の間で意識の差があると感じている。保育園や認定こども園では、関係機関と協力しながら、口の健康は育ちにとって一生を左右する大事なことだということを保護者、家庭、地域に啓発していきたい。

○委員： 商工会議所のパンフレット等を利用してもらうのはいいと思う。

#### 4 その他

○事務局： 委員からの意見を反映させ、第2回の協議会で提示する。なお、第2回の協議会は平成30年2月頃を予定している。

#### 5 閉会

挨拶 岡山市保健福祉局保健管理課 森峰課長